

○現状と対策レポート（第3号）

○主な課題と対策

課題1 病院や福祉施設などでの集団感染事例が相次ぐなど、市内での感染拡大が続いている

- 対策 ①保健所の体制強化などにより、1週間あたり約1万人以上のPCR検査等を実施している。また、クラスター対策として、療養病床を有する医療機関や入所型高齢者施設・障がい者施設におけるスタッフに対するPCR検査等の実施を支援することで、早期発見による感染拡大防止を推進する取組を実施していく。
- ②感染拡大が続いているので、市民に感染拡大防止対策の徹底をテレビCMをはじめとする様々な媒体を活用して広報している。

課題2 感染者が発生した医療機関の医療従事者等の診察拒否などの事例が報告されている

- 対策 ①札幌市医師会・札幌市の連名により、差別・偏見等の撲滅に向け、各医療機関（約1,600施設）に対し文書で要請した。

課題3 特別養護老人ホーム（入所者100名規模）の高齢者施設・病院などで、重症化リスクが高い人への感染が発生している

- 対策 ①クラスターが発生した時は、すぐに現地対策本部を立ち上げ、現地の状況、そこに入所されている方の病状をいち早く把握して、症状の重い方がいれば優先的に入院の措置を引き続きとっている。

課題4 接待を伴う飲食店などのクラスターは減少しているが、根絶に向けてさらなる対策を必要としている

- 対策 ①市内全域の接待を伴う飲食店に対し集中対策期間を1月15日まで延長し、営業時間の短縮などの協力を要請している。
- ②クラスター対策として、繁華街における予防的・定期的なPCR検査を実施していく。

課題5 介護が必要な陽性患者の受入先の確保に大変苦慮している

- 対策 ①入院病床に余裕を持たせるため、無症状、軽症の方などでリスクの低い方については自宅療養の対応を行っていく。
- ②介護が必要な陽性患者の受入先の確保に努めている。

課題6 コロナ対応の拠点となる入院受入医療機関では、退院できる患者の受入病院がなく、後方支援病院の確保が急務となっている

- 対策 ①医療が必要な方は病院、十分な健康観察が必要な方については宿泊療養、年齢が若く容体変化リスクの低い単身世帯の方等は自宅療養と、感染状況に応じてこの3段階に分けて実施していく。
- ②後方支援病院の確保に努めている。

課題7 自宅療養者の症状が急変した時の相談先や診療先が見つけづらい

- 対策 ①相談先として救急安心センター（#7119）への案内を新たに開始している。
- また、オンライン診療も順次始めており、今後も医療機関の負担軽減を図っていく。

課題8 発熱等の症状がある患者について、受入先決定までに時間を要する事例がある

- 対策 ①各医療機関に対し、発熱等のある患者の救急搬送の受入について協力要請している。